



編集後記

ディープな場所と人物を取材する深夜番組『マツコ会議』で、大阪にあるレッドソールバーが取材されていました。レッドソールとは赤い靴底を意味し、クリスチャン・ルブタンの代名詞です。クリスチャン・ルブタンの愛好家が集うバーでは、客の皆様はお気に入りのハイヒールを履いて取材を受けていました。女性が気分を上げるのにハイヒールを履くのは男性でも理解の範囲内で、靴の裏が真っ赤であればさらに気分は高揚するのでしょうか。真っ赤な色は気分や感情に強い刺激を与えます。フランス人であるルブタン氏の感覚はとても現代的で、写真家・映画監督の蜷川実花さんの世界と相通じる東西共通の感覚だと感じました。ちなみに、蜷川さんもクリスチャン・ルブタンの愛好家です。

そのルブタン氏が雑誌『GQ JAPAN』のインタビューで、愛読書に挙げていたのが、谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』だったのには驚きました。全く真逆の世界です。日本文化の根幹を成す、陰翳を愛する心。例えば、光を抑え、闇が演出された日本家屋で、蝋燭の灯りを頼りに吸い物碗の蓋を取り、はっきりとは具が見えない中で、漆器の手触りを感じながら、食事を味わう。一方、まばゆいばかりのルブタンの靴は、光が

編集顧問	小川秋實	秋元成太	村井 勝
	郡健二郎	藤岡知昭	
編集委員	大家基嗣	近藤幸尋	小島祥敬

フルに当たると怪しく真っ赤に反射する原色の視覚世界です。共通点は見当たりません。探してはいけない気がしました。

『陰翳礼讃』では、なぜ日本人が暗がりの中で美を求める傾向にあるのかが、大胆な推測とともに述べられています。それは、闇を幾重にも配置した日本家屋の中に女性を籠らせ、女性の白い肌を美しく見せるための嗜好であったと書かれています。

『マツコ会議』をきっかけに興味本位でルブタンの店に入ってみました。ハイヒールのみならず、スニーカーに至るまで、靴底は赤で統一されていました。私に合う靴を探したところ、ビジネスシーンでも履ける革靴を何とか見つけました。試しに履いてみると、履き心地の良さに驚き、気にいって購入しました。機能性と美を兼ね備えているのが人気の秘密だったのです。磨きぬかれた黒い革が光に反射する美しさに引き込まれました。光に呼応する表面の黒と裏面の赤のコントラスト。ふと、漆器を連想しました。ルブタン氏は日本文化に通じていて、漆器からレッドソールを思いついたのかもしれないと、感じた次第です。靴も漆器も使えば使うほど愛着が湧き、馴染んでくることが共通点でしょうか。

(大家基嗣)

臨床泌尿器科 (第75巻 第1号) (通巻894号)

2021年1月20日発行 (毎月1回20日発行)

定価：本体3,080円 (本体2,800円＋税10%)

2021年年間購読料

(増刊号を含む13冊、税込、送料小社負担)

冊子版 43,824円

電子版(個人) 43,824円

冊子+電子版(個人) 49,324円

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 俊

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5724

(担当：金子・今田)

販売部直通 (03) 3817-5659

E-mail: rinpi@igaku-shoin.co.jp

振替口座 東京 00170-9-96693番

印刷所 ㈱双文社印刷 電話 (03) 3973-6271

広告申込所 ㈱文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2021. Printed in Japan.

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は株式会社医学書院が保有します。

・ 本誌を無断で複製する行為 (複写、スキャン、デジタルデータ化など) は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的 (診療、研究活動を含む) で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

・ **JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

* 「臨床泌尿器科」は株式会社医学書院の登録商標です。